

4 平成30年度GAP認証等に関する調査について

全国高等学校農場協会振興局

1 調査目的

2020 東京オリンピック・パラリンピック、急増する輸入農産物、輸出農産物の販路拡大などを背景に、農産物・食品の安全や品質向上、国内外市場における競争力向上、農産物の認定資格などが強く求められている。次世代の農業及び農業関連産業を担う人材を育成する高等学校農業教育においても、農業生産工程管理（GAP）・危害分析重要管理点（HACCP）などに関する学習を推進し、農業生産・加工の工程を国際標準に高めることが喫緊の課題となっている。

そこで、全国の農業関係高等学校に調査を実施し、GAPの取組状況と課題について把握し、関係機関への要請活動を通して課題の解決を図る。

2 対象

農業科又は総合学科を設置している高等学校から回収があった。(376校)

3 アンケート項目

1) GAP（農業生産工程管理）の認証の取組について

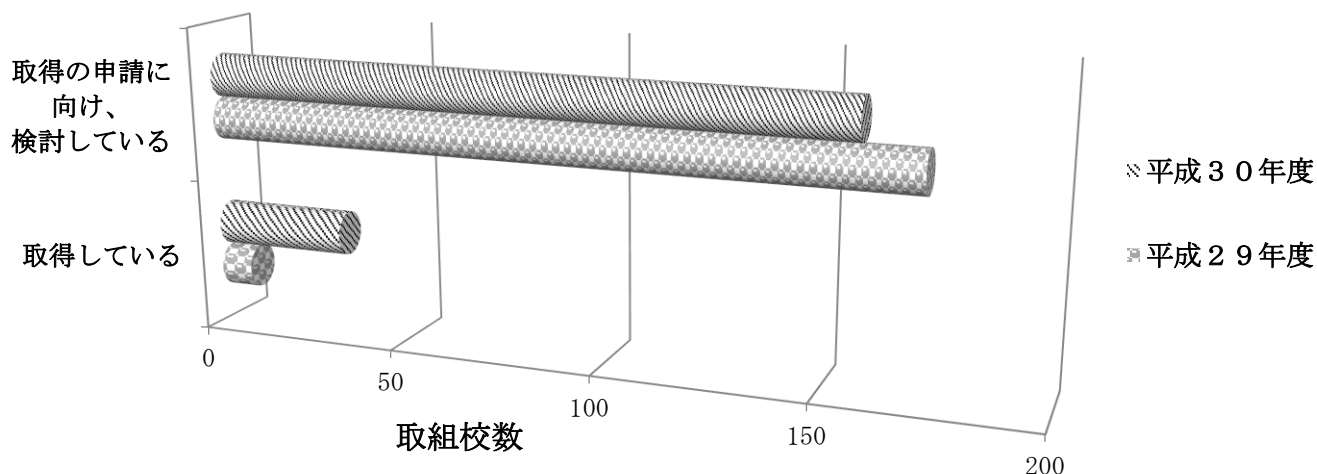
(1) 各校の取組について

(1) 各校の取組について		平成 29 年度	平成 30 年度
取得している		8 校	33 校
取得の申請に向け、検討している		172 校	157 校※
認証取得に向けて、現在は課題が解決できない。	現行の授業・実習計画の中で、GAP 認証取得の位置付けを検討中	105 校	63 校
	施設・設備の老朽化で、認証取得が難しい		29 校
	取得のための予算がない		53 校
	生物生産関係の学科がなく、認証取得は難しい		26 校
	その他		32 校
			203 校

※認証取得を複数検討している学校がある。

グラフ 1

GAP 認証取得の取組

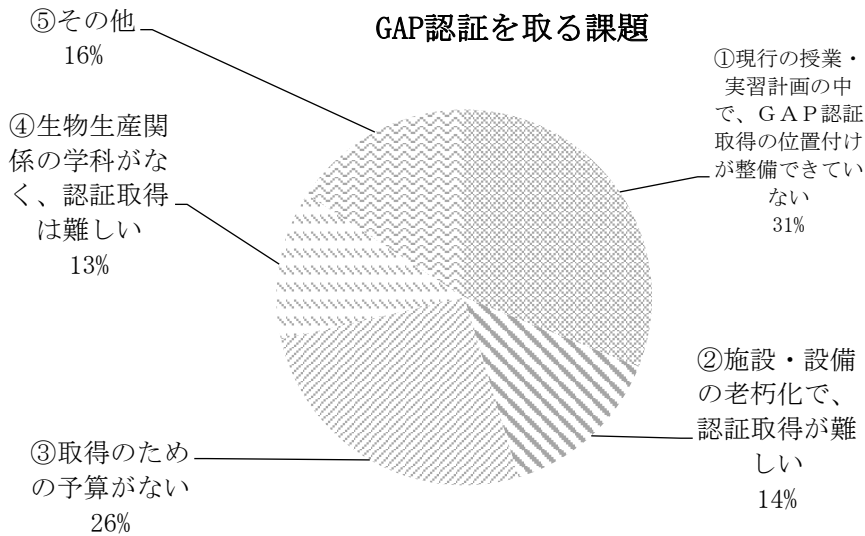


※平成30年度

※平成29年度

グラフ 2

GAP認証を取る課題



「分析」

GAPの認証取得に向けた課題の大きな理由は、「授業・実習計画の中で、GAP認証の位置付けを検討中」63校、「取得のための予算がない」53校である。この結果は、教員がGAPに関わる指導をどのように行っていくか、模索していることや指導するための研修費用等の予算措置、時間等の整備が都道府県ごとに異なっているためである。また、①GAP認証の位置付けの整備②施設設備の改修③認証取得のための予算措置が改善されれば、さらに認証に向けた取組を行う学校が増加することは間違いない。

(1) 認証取得していた種類

認証取得の種類	校数
①Global GAP	9校
②アジアGAP	2校
③J-GAP	13校
④都道府県GAP	9校

(2) 認証の品目数

認証の品目数	校数
①1	20
②2	4
③3	3
④4以上	6

「分析」

平成29年度にも同様の設問でアンケートを実施した。「取得している」が8校から33校と増加したのに対し、「認証取得に向けて、現在は課題が解決できない。」も授業計画や施設設備の改修・認証取得のための予算について解決すれば105校から58校と減少する。認証には、都道府県ごとの対応の差（予算・取組の指示等）があると思われる。また、認証の種類は、Global GAPが9校、アジアGAP、J-GAP、都道府県GAP24校ということから、認証に関わる予算面で判断されたのではないかと考える。

(3) 認証作目

認証作目	校数
トマト	14
イネ	8
メロン	4
しゅんぎく、たまねぎ、ぶどう、ほうれんそう	3
かぼちゃ、きゅうり、玄米、茶、チンゲンサイ、トウモロコシ、長いも、長ねぎ、にんじん、にんにく、ミニトマト、りんご、レタス	2
甘夏、イチゴ、カリフラワー、河内晩柑、カンショ、キャベツ、清見タンゴール、ごぼう、小松菜、コムギ、さつまいも、さといも、サニーレタス、ジャガイモ、不知火、スイートコーン、水稲、スダチ、精米、セルリー、大豆、畜産、なす、にがうり、はくさい、パクチー、葉ネギ、ばれいしょ、ピーマン、ブロッコリー、ポンカン、ミズナ、モモ、らっかせい（生）	1

「分析」

認証品目を見ると圧倒的にトマトが多い。これは、施設栽培における生産性の安定、需要、現在の栽培作目から選択し、認証のしやすさを優先した戦略を取っていると思われる。また、イネは主食で作付

面積が多いことから、地域特産物を活かしたGAP認証を行っていることが判る。

2) 認証予定で検討している学校の状況について

(1) 認証予定の種類

認証予定の種類	校数
①Global GAP	23
②アジアGAP	16
③J-GAP	55
④都道府県GAP	63

(2) 認証予定の品目数

認証予定の品目数	校数
1	84
2	35
3以上	18
その他・無回答	20

「分析」

認証予定の種類は、現時点で各校判断に迷っていることが数値から考えられる。今後、予算の配付、施設の改修等の整備が行われると認証の種類の数値が変化することが考えられる。

(3) 認証予定作目の種類について ※(1校で複数品目あり)

認証予定作目	校数
トマト	41
イネ	34
ナシ	12
ぶどう	10
きゅうり	8
メロン	8
水稲、茶	6
リンゴ	5
イチゴ、ネギ	4
シイタケ、ジャガイモ、ダイコン、ダイズ、ナス	3
カボチャ、柑橘、カンショ、キノコ類、サラダ菜、タマネギ、マンゴー、ミカン	2
アスパラガス、カキ、コムギ、地鶏(但農どり)、シャインマスカット、スダチ、ソバ、卵、トウモロコシ、ナガイモ、ニンジン、ニンニク、ハクサイ、パッションフルーツ、パプリカ、ブルーベリー、ホオズキ、マオモ、三ツ葉、ミニトマト、ムギ、もち米、もち麦、らっかせい(生)和牛	1
未定	6

「分析」

認証予定品目もトマト、イネの順である。以下、ナシ、ブドウの順になっており、認証品目ではまだ少ない品目数が上位を占めている。今後、どのような推移になるか見えないが、各校地域特産物とその特色化をどう図っていくか、検討していることが考えられる。

3) GAP(農業生産工程管理)教育の取組について

(1) 各校の学習内容について

①年間計画に位置付け	162校
②年間計画に位置付けを検討中	90校
③行っていない	67校
無回答	57校

(2) 最も時間数を位置付けている科目(複数回答あり)

科目	校数
農業と環境	58
総合実習	26
農業経済・農業経営	21
野菜・作物・草花	59

(3) 年間授業計画に位置付けを検討中の理由(複数回答あり)

年間授業計画に位置付けを検討中の理由	校数
①科会等において、これから共通理解を図る	45
②授業ではなく、行事等で指導している	18

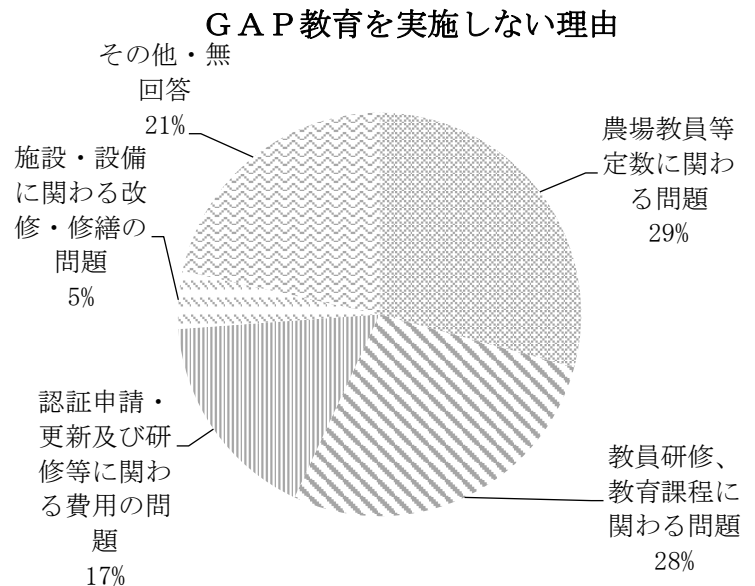
③位置付ける必要性がない	9
④その他、無回答	31

「分析」

GAPを指導する科目の多くは、「農業と環境」56校とである。これは、低学年で農業実習を取り組むなかで、食の安全、危害分析などGAPの柱をきちんと生徒に指導させることが大切ではないかと考える学校が多いと思われる。次に野菜、作物と栽培、認証という一連の流れで指導していることがわかる。

4) GAP教育を実施しない理由

GAP教育を実施しない理由	校数
農場教員等定数に関わる問題	19
教員研修、教育課程に関わる問題	18
認証申請・更新及び研修等に関わる費用の問題	11
施設・設備に関わる改修・修繕の問題	3
その他・無回答	14

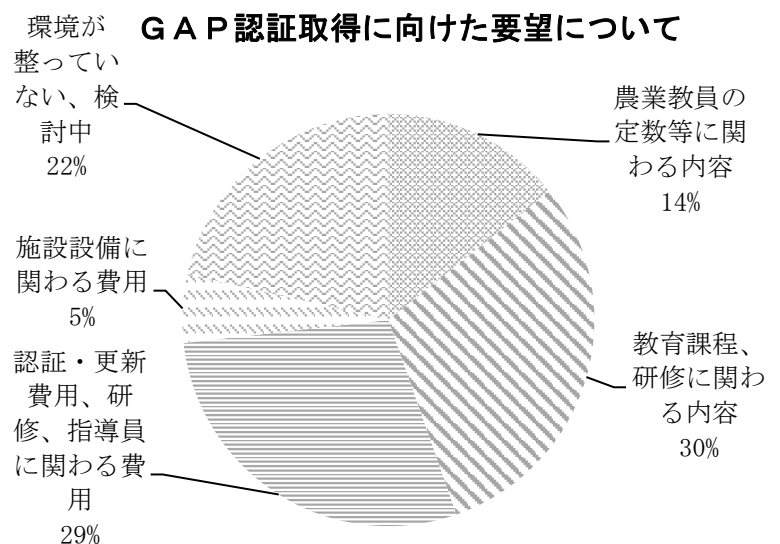


「分析」

GAP教育を実施しない理由の多くは、「農場教員等定数に関わる問題」19校、「教員研修、教育課程に関わる問題」18校と教員の取組方に課題がある。これは、科目の指導のなかで、何に重点をおいて指導するか、学習指導要領をもとにどう指導するかなどがこれから検討するなどが考えられる。新学習指導要領の改訂に向け、各校がGAPをどのように指導するか模索中であり、教員の検討が急務である。

4 GAP取得に関して、本協会への要望等について

GAP取得に関する要望について	校数
農業教員の定数等に関わる内容	8
教育課程、研修に関わる内容	17
認証・更新費用、研修、指導員に関わる費用	16
施設設備に関わる費用	3
環境が整っていない、検討中	12



5 おわりに

平成29年度から、アンケートを実施し、二年目である。昨年と比べると各校GAPへの取組が広がった。しかし、認証にかかる予算、施設設備の改修等を日頃の教育予算で賄うことは困難であり、取得することに課題を抱えている学校がある。今後、農業高校がGAP・HACCP等の取組を行うには、それに伴う経費、施設設備の改修予算を別途配付できるよう要望していく。